

---

## 会報 2015年3月号



日本ニュージーランド協会 (関西)

創立 1970 年

New Zealand Society of Japan ,Kansai

---

桜前線が北上していますが、ニュージーランドは黄葉の季節が始まりました。

事務局の近くにある鞆公園は、市内では桜や薔薇の名所として知られています。

秋のニュージーランドを楽しまれた会員の方も多いたと思いますが、機会があれば旅行談をお聞かせください。会報への投稿も歓迎いたします。日本では、4月が年度初めのところが多く、気持ちを新たにしておられる人も多いようです。

**You can't discover a new ocean until you have the courage to leave the shore. C.Sark**  
お蔭様で当協会は、今年、創立45周年を迎えています。今後の更なる発展には皆様のご協力は不可欠です。よろしくお願い申し上げます。記念行事へのご提案がございましたら総会までにお知らせ下さい。4月から5月にかけて、会員総会・タウマルヌイ高校生との交流会・ラム肉料理会等の行事が続きますが、多数のご出席をいただきますようご案内申し上げます。

### 第 251 回例会(2015年会員総会)ご案内

と き：4月18日(土) 受付 11時15分～ 総会 11時30分～12時30分  
昼食懇親会 12時40分～13時40分

ところ：(一般社団法人中央電気倶楽部) 北区堂島浜2-1-25  
地下鉄西梅田駅から12分 堂島ホテルを西へ300m  
電話：6345-6351 (昨年と同じ会場)

議 件：事業・決算報告、事業計画・予算、45周年記念事業計画、役員の一部変更など

費 用：総会は無料 懇親会は3,000円

申込み締め切り：4月14日(火)以降の懇親会キャンセルは全額いただきます。



12月23日クリスマス例会

事務局：大阪市西区江戸堀1-23-26 西八千代ビル3階C

N.S.コンサルタント内 電話：(06) 6607-2112

HP：<http://nzsocietykansai.com>

E-mail：[nzsjk1970@yahoo.co.jp](mailto:nzsjk1970@yahoo.co.jp)

---

## 第 252 回例会ご案内 (タウマルヌイ高校生との交流会)

隔年ごとに来日している北島のタウマルヌイ高校生が今年は初めて春、4月4日から来日され、各地を見学されます。9日から3泊は長居 YH に連泊され京都・姫路・大阪に行かれます。**当協会との交流は4月25日(土)神戸**で行いますが、ご希望の方は10日・11日・12日に同行案内(費用は各自負担)をお願いします。詳細は、旅行全体を統括されている呉橋前会長にご連絡ください。携帯:090-1952-9370  
例会の詳細案内は、同封パンフレットをご参照ください。

## 第 253 回例会ご案内

NZ ラム&ビーフの料理会を開催します。会員交流の場としても毎年、好評をいただいております。  
と き:5月16日(土)10時30分~13時45分  
受付開始10時00分  
ところ:こうべ市民福祉交流センター調理室  
(昨年と同会場)  
三ノ宮駅より徒歩約15分  
ポートライナー貿易センター前駅より  
徒歩約5分、078-271-5310  
中央区磯上通3-1-32  
参加費:2,000円 飲み物:BYO(持参)  
エプロンも持参ください。  
4月30日以降はキャンセル料1,000円

### 訃報

2008年から理事を務められ、事務局長として会報発行などにつきご尽力いただいた桑原耕治さんが、昨年12月30日に永眠されました。享年68歳。謹んでお悔やみ申し上げます。  
通夜・告別式には数名の会員が参列させていただきました。今月号にお二人から追悼文をいただいております。

## 桑原耕治兄との7年間

桑原耕治さん(1946.12.29-2014.12.30)は2007年9月16日の臨時例会に初めてご夫婦で参加されました。会場はみんなく。「ヴァカ・モアナ展」と「カパハカ」公演がありました。ちなみに「カパハカ」の司会はマシウス准教授。寝起きのヒッピーのような身なりは気取らないキーウィーそのままでした。桑原さんは強烈に定年後の生きがいを求めていました。11月例会「神戸散歩」にもご夫婦で参加、翌年3月例会では「オアマール英語楽習宿と乗馬体験」のスピーカーとなり、4月からは柳田会長のもと理事を引き受け、6月には協会ホームページを立ち上げてくれました。まさに協会にとって最高に「あらまほしき」人材でした。



2014年6月シキホールにて  
盟友マイク・バトラー氏と

2010年3月6日「敦賀原発運転訓練センター見学と日本海さなな街」例会を手配、案内してくれました。今思えば、荒田さんの鋭い質問が的中した「福島」のはほぼ1年前でした。同年4月年私が会長を継ぎ、桑原さんが事務局長となり、40周年に取り組みました。5月28日二人でNZ大使館での姉妹都市友好協会の集いに出席。夜行バスで大阪を発ち、朝、上野の銭湯で着替えました。ワイシャツの下には「40周年記念Tシャツ」。大使館でのスピーチの後二人でスーパーマンのように早変わりするはずでしたが本番ではちょっともたもた。失敗を共にして友情が深まりました。6月には「オーモンドソン昭子さん講演」をすべて原稿に起こしてくれました。経験しなければその大変さは理

解できません。これは今も協会の財産としてホームページでご覧になれます。10月19日20日と「クライストチャーチ例会とリンカーン大学川瀬勇博士ブロンズレリーフ序幕式」では良き記録係をしてくれました。私のクライストチャーチのホストファミリー故バジ・ハンドルビーさん宅へ彼は私より2泊先に到着したのですが、私を迎えにきたバジはKohjiをべた誉め、すっかりくつろいでいる彼に私はちょっと嫉妬しました。桑原さんは帰路タウマルヌイに寄りダンカン先生の所で3泊、大自然の中、乗馬し放題を楽しみました。その顛末もホームページでご覧になれます。2011年2月22日クライストチャーチ大地震発生。桑原さんは募金活動の先頭に立ちました。協会が窓口をした「1995阪神淡路大震災の際の被災者クライストチャーチ一時滞在」を前面に出すべきだという彼の提案は大きな反響を呼びました。そして3月11日の日本の震災の後には専門家としての視点からネットを通じて国際的に発言しました。

桑原さんとはとにかく仕事が早く効率的、曲がったことと回りくどいことが大嫌い。裏表が無く、好悪を隠さず、全く日本社会向けではありませんでした。NZとシキホールで彼は愛され受け入れられました。

会報発行が近づくと彼は裏表紙を作成の上、たいてい金曜日朝一で私のところにやってきます。ところが私は集中できない。結局、昼のつけ麺（彼の大好物！）を一緒に、夕刻までできるだけのことをしてご帰宅いただき、土日月で私が手を入れ発送という流れでした。完成稿を送るとすぐホームページにアップしてくれました。理事会では終了するころには議事録が出来上がっているという素早さでした。

2013年5月の神戸でのラム肉調理例会が彼の最後の例会出席となりました。闘病生活が続き、会報作成にも来れなくなりました。桑原さんという名事務局長を失い、翌年3月まで協会の活動は失速しました。その後、彼と会うのは病院となってしまいました。私自身も多くの入院経験があるせ

いか「呉橋さんの見舞いは気楽でいい」と誉めてもらいました。藤村瑋子さん、永田美夜子さん、私の三人でお見舞いは何がよいか相談して「雲の柱の導くままにーその心は、神様に全ておまかせしてラクダー 賀川豊彦書 川瀬勇兄へ」額の複製を贈りました。ことのほかお喜びいただいたようです。賀川、川瀬、桑原とその心は受け継がれたのです。

最後の会話は12月23日協会のクリスマス例会直後の電話でした。「油ものが好きなので良枝（ご次女）が作ってきてくれるのが嬉しい。病院での良枝のプラも本当に良くて」とゆっくり、ほほえみながら（見えるようでした）話してくれました。

お互い良い齢なので、またそういう性格でもないので、友情を告白しあったことはないのですが、なぜか一緒にいて幸せ、なぜか馬の合う友人、よき相棒との貴重な7年間でした。桑原さん、またあう日まで。

呉橋 真人

## 決断と行動の人

前事務局長の桑原さんは決断と行動の人でした。例えば長年勤めた会社で五十歳代後半に、対立した上司とは退職という形で決別されました。ニュージーランドの大学を紹介するとあっという間にその語学学校に自分で入学の手続きや宿泊の手配をされそこで人的な繋がりを作られました。自分の得意とする絵の描き方を認めない教師とは直ぐに袂を分かたれました。病床に在っては自分の納得できない治療法や薬に付いて医師と徹底的に話し合い納得されなければ転院という形で意思を通されました。四国の八十八ヶ所の寺院巡りを完遂したにも関わらず既存の宗教に納得せずキリスト教に帰依されました（それも教会の関係者が驚くほどの短期間で！）。フィリピンの小島に数年間に二十四回も訪問し、その若者が人生を掛けて働ける環境を現地の有力者を巻き込んで納得できるレベルまでに仕上げられました、等々。

桑原さんがワイカト大学の英語教師サイモン・ジェンキンスから、彼が国連がらみで働いた間タジギスタンやキリギスタンなどで戦争や紛争を逃れた避難民救援の経験談を聞いたことありそれが桑原さんの退職後の人生に大きな影響を与えたということをお聞きしました。又、私がNZに行った際定宿としている老婦人の息子（イアン）が家族ぐるみでフィリピンのスラム街で極貧の人たちの救済を10年間近く行いNZに帰ってきたという話をした際大いに興味を示されました。その後フィリピンのシキホール島で絵画などに才能が有りながらそれを生かすことのできない若者を救済する活動を始められましたが、サイモンとイアンがその行動の原動力になっていたことをお聞きしました。

桑原さんと私は神戸、西区の同じ地区に住んでいたためNZ協会の理事会や例会の後などよく一緒に帰宅していました。その電車内で聞かされた最大の事件は2011年に膀胱癌が発見されたことです。それには放射線治療をされましたがその結果生じた瘡蓋が尿道を塞いで苦しみました。その後新たなガンが胃や頸椎に出来てしまい、それらのガンに対する最先端の医療技術を求めて病院を自分で捜されました。治療法や薬の内容などを書籍やインターネット等で最新の情報で確かめ疑問があればそれを直接医者に質問し、新たな病院を捜すということを実行されました。その間私が見舞った病院は市立西神戸医療センター、三菱病院、市立神戸市民病院、国立先端医療センター、県立加古川医療センターなどです。

しかしガンが頸椎に発見され、それが現代の最先端医療での治療が無力であると判断された時点で一切の治療を止められました。私には「現代医学で治療できることは全てやった。それで完治出来ないのならもう治療する意味がない」と言われました。その時期は2014年夏でそれ以後はご自分の身体が要求する物しか口にされられず、点滴で水分や栄養などで体に入れることは拒否されました。その頃から名古屋大学、同大学水泳部、会社の同僚、趣味の会、所属する会、キリスト教会など多

くの友人、仲間と別離の会をそれぞれ個別に実施されました。そして死が近づくと自分の葬式の内容、歌ってもらう曲目など教会や式を司会する牧師と何度も打合せをし、手配されました。

昨年10月末から11月初めからは、11月23日のシキホール島でのアートビレッジ（芸術村）の完成式典、12月2日の加古川のホスピスへの入院（これは桑原さんが自分で探した三つのホスピスから選ばれたもので入院の日は11月初めに決められた）など彼の人生の最終章に入りました。その頃「ホスピスに入ってから死ぬまでの期間は大体2週間から20日間程度ですよ」と他人事のように言われたことを思い出します。そのホスピスにも8回見舞いましたがその7回目となる12月26日のお見舞いの際に耳元で「私が判りますか」とお聞きすると薄く眼を開け頷かれたので「NZ大使館のステファン・コルベットと大阪で会ってTPP等の話をしていた時桑原さんはぷっと席を外し帰ってしまったね。あれはコルベットに腹を立てて行ったのでしょうか」と話すと笑みを浮かべ頷かれました（これが桑原さんとの最後の会話となりました）。

桑原さんの誕生日は12月29日でどうしても誕生日の祝いはしたいという強いご意欲があり、ご家族もそれを求めていらっしゃいましたがその68回目の誕生日を1日過ぎて12月30日に永遠の眠りにつかれました。

桑原さんは原子力発電への寄与、四国八十八寺院巡り、60歳に入ってから英語のマスター、プロはだしの絵画力、64歳ころからのフィリピンの若者用芸術施設開設活動、ガン治療に対するその治療法・薬効・死亡率などの詳細記録等、多くの項目に余人が真似ることの出来ない業績を残され、文字通り「棺を覆ってこと定まる」を体現されました。

特に最後の著書「ガンもまんざら悪くない」は医療関係者を含む人々にも十分意味のある名著だと思えます。

松元 昇

## 行事のご報告

### 第 247 回例会

(京都大学山内龍男先生研究室)

10月11日(土) 11時、京大時計台前に16名が集合し、時計台記念館(大学の歴史紹介が中心)・総合博物館の見学後楽友会館で美味しい昼食。スパニッシュスタイルの建物は意外と気軽な雰囲気でした。その後、キャンパスを散策(迷子になりながら)して山内会員の研究室を訪問。ご専門の紙材料研究の講義を受けました。内容は資料を参照ください。山内さんは、1984年から2年間 NZ 政府招待研究者としてロトルアの紙パルプ研究機関(PAPRO-NZ)で研究されました。主な著書で素人にも比較的読みやすい本として、紙とパルプの科学(京大学術出版会)等があります。協会の例会では、初めての大学訪問。企画段階からご尽力いただいた山内さんに感謝しながら暑いキャンパスを後にしました。



山内先生



研究建屋前

## 第 248 回 例会報告

(太津隆司さんの果樹農園での柿狩りと散策)



笑顔の参加者

11月15日(土曜日)に奈良県西吉野町赤松の太津隆司さんの柿農園を総勢25人(6歳の子供さん、1歳の幼児を含む)で訪問しました。過去3回までは近鉄下市口駅に小型のレンタルバスで到着するグループと、電車や車で各自が集まるグループがありましたが今年は全員が電車や車で同駅に集合する方法に変更致しました。駅には太津さんが迎えに来て頂いて5、6台の車を連ねて一路ご自宅に向かいました。到着後渋柿や甘ガキの説明などをして頂いた後ご自宅に隣接する柿農園に移動しました。



日本一の柿農園

当日は朝方少し寒さを感じたものの柿狩りを開始するころには暖かな晩秋の日差しの中で夫々がまずは食べ頃の大きな柿を自由に切り取り素晴らしい味を堪能しました。硬めの柿が好きひと、完熟の柔らか目な柿が好き人と様々です。お腹が

柿で満たされた後は持って帰る柿の切り取りとなりましたがその頃には少し汗ばむような陽気となりました。太津さんからの「どれでも気に入った柿を取っていいですよ」の声が参加者には天からの声に聞こえます。

太津さんの柿園ではご自宅近くの園の柿は鈴なりでしたが少し離れた所では収穫が終わっていました。特にお訊きはしませんでしたでしたが私たちの為に収穫をされずに残して頂いたのかなと思った次第です。柿の実を収穫され終えた木々は紅葉や落葉が進んでいましたが実が残っている木々は葉っぱが青々としています。太津さんの説明で実を取った木々は直ぐに紅葉すると云うことを知りました。柿の木も自分の務めを果たしたと判断し来年の準備の為に休養に入って行くのかと思い、又、太津さんは実が付いたままの枝を希望された方には「来年の為には枝の切るポイントがあるんですよ」との声を掛けて枝を切っておられました。そのようなお姿に柿の木々に対する深い愛情を感じ、太津さんと柿の木々との間には気持ちの交流があると確信しました。

正午過ぎに準備されていた弁当を頂く事になりました。お腹は柿で一杯になっていましたが柿の葉寿司などが入った弁当は又別の胃が受け入れてくれ満腹感で満たされました。その寿司を包む葉は見慣れている緑色ではなく綺麗に紅葉していてそこにも秋を感じました。又、飼い犬の「ノラ」が我々を歓喜して歓迎してくる様子に皆も喜びました。

以前、吉野では約 80 年前に最初の柿の木が植えられその木々の柿の生産的な寿命は 45 年ほどでそれ以後は若い苗木に植え替えられるとお聞きしました。今回老木の横に幹の直径が 3 センチ位の柿の若木が植えられているのを見ましたがその柿に古木と同じような大きな実が成っているのを見て驚きました。柿の実は木が太くなってから大きくなるものと思っていましたが太津さんの柿の木は若いうちから大きな実をならせているのです。「梅檀は双葉より芳し」と言いますが「太津さん

の柿は若木より美味で太し」ですね！

午後 2 時頃太津さんの先導で五條市の江戸時代の景観を残す町並みを有する新町通りに向かいました。その通りは古くは大阪と紀伊を結ぶ紀州街道でしたが現存する家並みは文字通り江戸時代の佇まいです。しかし道路の幅は車が一台通るのに苦勞するほどでした。以前京都の山科でも旧東海道を歩いたことがあります。こちらの印象も街道と呼ぶには狭いなど思った記憶があります。昔はその街道を参勤交代の行列が行き来した訳ですね。新町通の東端に 1607 年と 1690 年代に建てられた、国の重要文化財となっている栗山家の住宅 2 棟がありました。400 年以上もの昔の建物が現存しそこで実際に生活されていることに感慨新たなものがありました。

今回も全員が大きな満足と共に帰途に付きましたが太津さんには収穫期の真ただ中、貴重な好天気の日を私どもの為に割っていただきまして有難うございました。心より感謝いたしております。

初めに記しましたように今回初めてレンタルの小型バスを使わず会員の個人の車と近鉄電車を利用しての行事参加でしたが柿園から直接帰宅される車があったりして新町通り見学の希望者全員が参加できない事態も生じました。大変申し訳なく思うとともに心よりお詫び申し上げます。

松元 昇

## 第 249 回例会報告 (クリスマス例会・神戸)

12月23日(祝日)、恒例のクリスマス例会は神戸倶楽部で新会員1名を含め45名の参加がありました。バザーで始まり、参加者の一言スピーチ・NZ 関連クイズ・プレゼント交換・ビンゴゲームの後、ペルーの古都、クスコ出身のフローレス兄弟のミニ・コンサートが始まりました。来日して約30年、すっかり日本に馴染んだお二人からの楽器の紹介も含め、エルコンドル・パサなど素朴な中南米音楽とリズム感溢れるラテン音楽・故郷などを聴きました。ポカレカナアナ、聖この夜など

を合唱も含め約20分、楽しい時間を過ごしました。また、桑原前事務局長のご好意で著書を配布し、売上金の一部(11,050円)を協会に寄付していただきました。



会場風景

なりました。こちらの資料館では小島功のカップのポスター、杉良太郎、三浦友和、三浦布美子が出ていた懐かしい黄桜の商業が大きなスクリーンで見ることができました。お水を自由にもらえるので沢山のペットボトルに入れて持ち帰る人を見かけました。食事では、お酒のほか、地ビールも楽しめるのが黄桜の特長です。食事会が終わった2時半頃には雨もあがりました。解散後、私と妹が偶然に立ち寄った伏見夢百衆は、月桂冠の旧本店社屋を改装したお土産店と喫茶店でした(限定の酒饅頭に釣られて入ったのですが)。天井の梁やアンティークの電灯が良かったです。伏見の水の味はやはり柔らかくて美味しかったです。

林 園子

## 第250回例会報告 (京都・伏見)

3月14日の伏見散策は朝から凄い雨の降り続く日となりました。

当日のキャンセルもあり、参加者は11人でしたが、観光バスで遠方から来られているグループや外国人の姿も多く見かけました。月桂冠の大蔵記念館では 入場料300円を支払い(お酒のお土産付き)、最初にお酒を造るには欠かせない水の味見から始まり、展示場で酒造りの工程や歴史を見て回り数種類のお酒の試飲、買い物等を楽しみました。



大蔵記念館内



大蔵記念館前

その後、食事会予約のキザクラカッパカントリーへ自由散策で移動しましたが、雨は小降り

## 会員だより ■オークランドから

日本ニュージーランド協会(関西)の皆様、新年あけましておめでとうございます。

ここオークランドでは日本とは逆の暑い日が連日続いています。

夏のニュージーランドは12月に入るとクリスマスムード一色。街も人も忙しくプレゼントを買う人、パーティーをする人達で街は活気に溢れます。私が働くレストランでも12月に入ると連日ファンクションの予約が入り、1年で一番忙しい季節となりました。

クリスマスを過ぎると大勢の人々が休暇に入り、街のにぎわいも少し落ち着きを取り戻しますが、多くのビーチでは海水浴客、家族連れ、BBQを楽しむ人達が集まり夏の風物詩となっています。オークランドでは新年を迎える時にスカイタワーから花火が打ち上げられます。大晦日から街や街を見渡せる場所には大勢の人が集まり、カウントダウンが行われました。私も大晦日で仕事納めだった為、仕事の後に Devonport から花火を観てきました。

今回の休暇で私は日帰りで White Island に 1 泊で Cape Reinga に行ってみました。

White Island は Tauranga の東、Whakatane という町からフェリーで沖へ 50km 程度行った所にあります。



ホワイト島

ニュー〜ジーランドで一番活発な火山で、50km 離れた Whakatane からでもその噴煙を目にする事が出来ます。島では有毒ガスは出てないものの、至る所から「シューシュー」と硫黄臭のきつい火山ガスが出ている為、ヘルメットとガスマスクが各自に配られ、ガイドと共に 2 時間程度島を回ります。硫黄や石膏を採掘が行われていた為、現在もその作業場跡を目にする事が出来ます。また、噴煙の届かない島の外側には植物も育ち、カツオドリの生息地にもなっています。



ヘルメットとガスマスク着用

現在島は私有の自然保護区になっており、上陸するには許可が必要な為、フェリーやヘリコプターで上陸するツアーに参加する必要があります。私が参加したフェリーのツアーでは島への往復時に運が良ければクジラやイルカを観察する事も出来、この日はイルカの群れと遭遇する事が出来ました。Cape Reinga はご存知の方も大勢いらっしゃるかと思いますが、ニュージーランド最北にある岬です。この岬はマオリの人々にとって重要な場所で、死者の魂が岬にあるポフツカワの木の根を伝わり、マオリ族が渡って来たと言われるハワイキへ旅立つ場所とされています。また、岬の先では太平洋とタスマン海がぶつかり、海面に一本の白い線が浮かびあがっています。



Cape Reinga

私は Cape Reinga から見る夕日がとても好きで、過去にも何度かここを訪れ美しい夕陽を楽しんでいます。機会があれば道中の 90 マイルビーチ等をゆっくり周り、夕方に訪れる事をお勧めします。今回、私は Cape Reinga で星空を見ようと訪れましたが、残念ながら満月だった為、期待していた

星空は見る事が出来ませんでした。星空は次回また挑戦したいと思います。



90 マイルビーチ

2015 年も日本ニュージーランド協会(関西)、会員の皆様にとって素晴らしい1年でありますよう心よりお祈り申し上げます。

片波見 徳将

(1月8日にeメールで寄稿いただきました。)

## ■ダニーデンから



自然に恵まれたダニーデン

昨年10月の末に11年住んだクイーンズタウンからダニーデンに引っ越しました、ダニーデンは南島の東海岸に面した美しい丘と湾に囲まれた町です。人口は約12万人、そのうち学生が2万5千人と約20パーセントを占めています。町の中心に程近い場所にキャンパスがあるオタゴ大学は1869年創立で、ニュージーランドで最も歴史の古い高

等教育機関です。ダニーデンは1848年にスコットランドからの移民がやってきて町をつくり、その後1860年代にゴールドラッシュがおこり、ダニーデンはこの金のおかげでニュージーランド国内で最も大きく豊かな町へと発展しました。この時代を象徴する豪華なヨーロッパのビクトリア朝様式やエドワード朝様式の建物が現在でも多数残っています。その中でも1906年に完成したダニーデン駅は豪華な装飾が施されたフレミッシュ・ルネッサンス様式の見事な建築物として有名で、現在ニュージーランドで最も写真に撮られる歴史的な建築物です。

天候は「一日のうちに四季がある」といわれるほど変化が激しく、夏でも時々朝は厚手のダウンジャケットが必要なほど寒く、昼間はTシャツでも暑いくらい、夜はまた厚手のジャケットと、旅行で来られた方は大変驚かれます。この天候のせいで美しい町なのに人口が少ないのかな！？とも思います。でも慣れてしまえば大丈夫です、冬でも雪が降ることはほとんどありません。

ビールとラグビーを愛するニュージーランド人ですが、ダニーデンにはスペイツ (Speight's) という地ビールの工場があり、工場見学ができ、レストランも併設されています。最近できたラグビースタジアム (Forsyth Barr Stadium) では地元のチームハイランダーズ (Highlanders) が試合を行い、日本人の田中史朗選手もプロとして活躍しています。



ダニーデン駅

ダニーデンのいいところは、町の中心から15分も車で走ると、セントクレアビーチや、羽を広げると3mもあるアルバトロスや世界でも珍しいイエローアイペンギン、オットセイがいる海岸、また羊が沢山の牧場地になり、都市の生活と田舎の雰囲気が両方楽しめるところではないかと思えます。また中国からの移民や海外からの学生も多く国際色豊かで、日本人の私も大変住みやすいと感じます。ダニーデンに住んでいる人はニュージーランドの中でも自分は幸せだ、と感じている人が多いらしく、のんびり、素朴で親切な人が多いです。

ロウクロフト真弓

### ■40周年記念事業 翻訳プロジェクト

クリスマス例会の時、呉橋前会長からNZの著名作家マーガレット・メイヒーの「NZの歴史」を共同翻訳プロジェクトの提案があり、会則第3条の趣旨に相応しいということで、45周年記念事業の一つとして取り上げることになりました。正式には、会員総会で賛同が必要ですが、ご興味ある方は、呉橋さんに至急ご連絡下さい。

06-6367-1773

詳細は、同封資料をご参照ください。

### ■創立45周年記念行事(予告)

大阪万博の年に設立された当協会も45周年を迎えました。当時と比べ日本とニュージーランドの交流も活発になりました。民間の草の根交流を更に活発に進めてまいりたいものです。記念行事は、11月23日(祝日)、神戸倶楽部で開催致します。

### ■Why don't you go to

### Food & Fun Fair in Kobe ?

六甲アイランドにある国際学校「カナディアン・アカデミー」で世界各地の料理・音楽・ゲームが楽しめるお祭りがあります。入場料は無料、予約不要です。

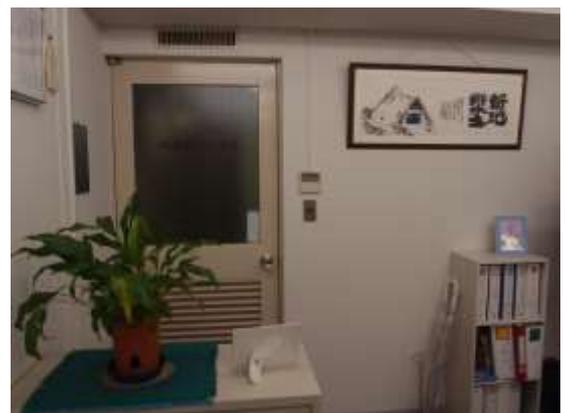
お気軽に参加されてはどうでしょう。キーウ・オージーの人々も来られるそうです。

とき：4月11日(土) 11時30分～14時30分

ところ：神戸 六甲アイランド

カナディアン・アカデミー

※カナディアン・アカデミーは1913年にカナダのメソジスト教会が設立、小学生から高校生まで約580名が学び、日本人は4分の1程度。M. クラグストン駐日大使の母校でもあります。



新事務局内

### 年会費について事務局からのお願い

2015年度の年会費をご請求します。詳細は、同封しております。  
お手数ですが、5月末までにお振込みをお願いいたします。